

味の素グループ高輪研修センター

建築主：味の素株式会社 坂倉一郎

設計者：株式会社久米設計 嵐山正樹、依田博基、渡瀬利則

施工者：大成建設株式会社 平田尚久



建物外観（撮影：ハットリススタジオ）

建築概要

建設地：東京都港区高輪3丁目13-65

建築主：味の素株式会社

設計：株式会社久米設計

施工：大成建設株式会社

竣工：2004年11月

建築面積：1,925㎡ 延床面積：6,210㎡

階数：地上3階、地下1階 高さ：16.0m

構造種別：鉄骨造

選評

国際的な食品企業の人材育成、研修のセンターで一般のための図書館、博物館機能も併設した計画である。都心住宅地における高さ制限、近隣への配慮を十分に計画してくみ込み、企業創業者住居の跡地であることから、一部歴史的な要素の保存も同時に実現している。

第一に特筆すべきは、都営浅草線の地下鉄シールド上部にマットスラブを配し、免震を介して軽やかな構築物が建設されている点にある。地下部分に大スパンの大講義室、庭に面したロビー空間を配し、地下部分へのランドスケープ、自然光の導入に免震構成の空間利用がなされている。地階から最上階へとつながる吹抜けと自然光に満ちたトップライトはこの建築に豊かな明るい空間性を与えている。保存された日本庭園、流水壁への眺望など明るい内部空間と内部外部の浸透性をたくみにデザインにとりいれ、日本の伝統建築のもつ和やかさと現代のモダニズムをむすびつけた表現を獲得している。免震により軽量大スパン、構造材のプロポーションが軽快に実現している点において、日本免震構造協会賞（作品）にふさわしい計画であるといえる。中規模の建築に免震を用いることで、構造性能を向上させるとともに明解な空間構成と形態ヴォリュームのデザインを成立させ、今後の免震をつかった建築設計に多くの可能性を示唆してくれる作品と考える。

（岡部憲明）

免震化した経緯及び企画設計等

本建物は、味の素グループの全世界的な人材育成の場として、味の素創業者自邸である「旧鈴木三郎助邸」の跡地に建設する研修センターである。地震災害時には免震構造を採用することにより、味の素グループの災害活動の中核として機能する。旧鈴木三郎助邸は、歴史的建築要素が多く、塀や内装材の一部を保存移築することにより伝統を継承する計画とした。

本敷地は、都心住宅地における高さ制限などの条件に加え、敷地内を地下鉄トンネルが横断するという条件がある。この厳しい敷地条件の中、施設計画の要求を満たす免震構造である。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

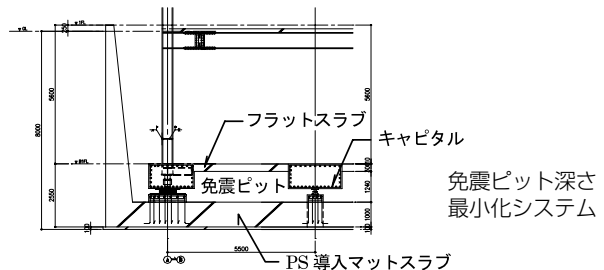
地下鉄が横断することにより与えられた建物重量、地下スペース・工事への厳しい制限、12ヶ月工期、狭小敷地での伝統的家屋の一部保存を行なうと条件に対して、以下の免震技術提案によって、高い耐震性能の確保と伝統の継承を図る新しい形態の研修施設を実現した。

【免震ピット深さの最小化システムの構築】

限られた地下スペースに大スパン架構を構築するために、免震架台をキャピタルとして利用したフラットスラブとした。フラットスラブは、16.6mの大スパン中間に上下方向を拘束する直動型転がり支承を配置することで応力の軽減を図った。また、マットスラブには、厚さを薄くするためにPCを導入した。

【大スパン軽量建物の免震システムと免震部材の適所配置】

H鋼柱・梁架構により構造体重量を軽量化することで制限重量を満足させ、最小個数の鉛プラグ入り積層ゴムにすべり支承+転がり支承を組合せた免震システムで、軽量免震建物の長周期化を図っている。また、高軸力となる中央部柱直下に弾性すべり支承を配置し免震部材からの反力を軽減するなど、免震部材の特性を利用した適所配置を行った。



擁壁を利用した滝（撮影：ハットリススタジオ）